

## ① 焼山浄水場跡

焼山浄水場は、昭和24年(1949)に建設されました。蛭根配水場から送られてきた工業水道に、ろ過・塩素消毒を行い、旧国道に布設された配水管から、土崎・寺内地区へ給水していました。今は役目を終え、一部の設備はほぼ当時の姿で現存しています。



## ② 東門院跡

東門院は、京都聖護院(天台修験の本山)末寺で四天王寺に属し、古四王社の神宮寺(神社に付属して建てられた寺院や仏堂)として管理していました。佐竹氏支配の時に東門院は聖護院と縁を切り、真言宗に転化しました。明治になって、神仏分離の結果古四王神社として独立し、国葬小社に列せられました。

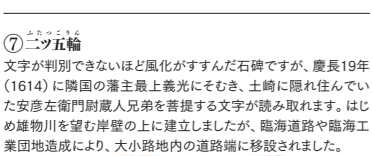
## ③ 旭さし木

推定樹齢約1,200年の巨木で、市内で1番古いと言われています。菅江真澄の「水のおもかげ」によると、昔この地域に住んでいた「旭」という長者の家の目印であったことから、この名前が付いたと言われています。明治19年(1886)の俵屋火事により、幹の一部が空洞化していますが、枯死を免れ徐々に樹勢を回復し、立派に葉を茂らせる生命力には驚かされます。昭和48年(1973)に市天然記念物に指定されました。



## ⑥ 旧馬口労働碑

現在、外町の南に位置する馬口労働碑は、寛永6年(1629)に寺内の前城から移された町です。昭和7年に前城に石碑を作りましたが、自立しなかったことから平成14年に馬口労働町内会の方々が、石碑を人目の付かない場所から現在の後城道路沿いに建て直しました。



## ⑦ ニツ五輪

文字が判別できないほど風化がすすんだ石碑ですが、慶長19年(1614)に隣国の藩主最上義光にそむき、土崎に隠れ住んでいた安彦左衛門尉藏人兄弟を善提する文字が読み取れます。はじめ雄物川を望む岸壁の上に建立しましたが、臨海道路や臨海工業団地造成により、大小路地内の道路端に移設されました。



## ⑧ 菅江真澄翁の墓

江戸時代後期の紀行家・菅江真澄は三河国(現愛知県)に生まれ、天明5年(1785)に秋田に入りました。その旅の日記と地誌類「菅江真澄遊覧記」は、歴史や民俗研究の貴重な資料であり、重要文化財となっています。文政12年(1829)に仙北で没しましたが、遺言により、親交が深かった寺内の田村神社神主・鎌田正家の墓域に葬られました。昭和37年に秋田市史跡第1号に指定されています。



## ④ 高清水霊泉

7世紀中頃、越国(現北陸地方)守の阿倍比羅夫が高清水岡に越王(古四王)を祀ったところ、突如湧き出したといわれる霊泉で、地名「高清水」の由来となりました。古四王神社の御手水として使用され、かつては周囲の清流にサンショウウオが息するほど澄んだ水で、古代の武将が飲み水として利用したともいわれます。(※現在は飲み水として使用できません。)霊泉の傍には聖観音立像が安置されており、訪れた人々によって霊水が捧げられ、今も大切にされています。



## ⑤ 三吉神社遷拜殿

五輪坂(五輪の塔の北側)に建てています。戊辰の役の際、藩主義勇が赤沼の三吉神社に戦勝祈願をしたところ、霊験があり勝利したことから、秋田藩士中川伝也が土崎以北の住民の参詣の便を図り、明治4年(1871)この地に拜殿を建立しました。



※解説文についての番号は、マップ表面のイラストについての番号に対応しています。



しました。晩年の永之介が好んで記した言葉「山美しく人美しい」と刻まれた歌碑は、昭和35年に建立されました。



## ⑫ 五輪ノ塔

寛永20年(1643)に、久保田の豪商森九蔵が建立した供養塔。灯りをともし、港を出入りする船の目印にしたと言われています。文化元年(1804)と同7年には地震で2度倒壊し、現在の塔は昭和42年(1967)に高清水公園内に復元された4代目です。この塔に至る坂道は五輪坂と呼ばれています。



## ⑬ 両津八幡神社

両津と八幡の合祀社で、両津の名称は河川2流と船の着く地を意味しているといわれます。縁起によると、天历元年(781)に出羽の探察使(役人)・小黒黒、武将・紀古佐美らが応神天皇を祭神として建立したのが始まりとされています。延暦年中に安部黒織により坂上田村麻呂の2寸2分の像が安置されると、その後



はこの地を支配した安東氏らの豪族が武神として崇めたといわれます。現在の外旭川地域の神田や八幡田といった地名は、かつて、そのあたりまでが神田領であったことの名残です。



## ⑭ 古代沼

秋田城外郭東門を出て、南方側にみえる古代の沼地。堆積していた泥炭層から、人面墨土器や人形など、まじないに関わる遺物が多く発見されています。



## ⑯ 兎塚貝塚

高清水丘陵の東南端、標高約30mに立地する縄文時代前期(約5,500年前)の貝塚。日本海側では数少ない貝塚の一つで、大木式土器様式の土器分布を考えると貴重な遺跡です。この地域は、現在はごさくらと呼んていますが、古くは「ちごさくら」と呼ばれていました。古四王宮大祭の時、稚児の舞が行われたところから、また兎塚というめでたい花が咲いていたことが地名の由来であると言われています。

## ⑰ 越前谷人形工房

4代目越前谷さん曰く、一番大事なことはボーッと考えることだそうです。土崎島山祭り近隣の6、7月にしか見ることのできない、人形造りの風景です。



## ⑱ 田村神社

延暦22年(797)に古四王大神のお膝元に田村麻呂将軍の宮を造営し、里人は大獄丸を射止めたものといわれる白羽の矢を2本祀り、武神として崇め祀ります。田村堂の神宮・鎌田正家は、菅江真澄の支援者でした。



国に国分寺が置かれましたが、秋田城鎮護のため四天王寺が創建され、境内に四王堂が祀られた古四王神社として継がれました。四王堂は、その後四天王寺を継承する東門院に合祀し、古四王大権現と称されました。明治15年に国葬小社に列せられ、本県最高の社格でした。祭日は5月7日。同名の神社は、越後から奥羽にかけて20社ほどあるそうです。

## ⑳ 石龍神社

久保田藩の治水事業の責任者で、奥六群(現在の東北地方太平洋側)の水難を治めて功績があった那珂惣助は、都に行き途中、瀬田(大津)の龍神に4度におたつて本国の水難除けをお祈りしました。享保16年(1731)、惣助が藩に願って湯沢手にした石龍をこの地に祀ったのが神社の始まりとされています。神社の付近一帯は根笹山古墳と呼ばれていますが詳細は不明です。また、駒は古墳の石棺を利用したものだという説もありますが、定かではありません。

## ㉑ 仙台藩殉難碑

慶応4年(1868)7月4日に、奥羽白石同盟にもつき、仙台藩から送られた特使・志茂又左衛門、副使山内富治ら11人が茶町(現秋田市大町)の宿舎の幸野屋と仙北屋で久保田藩士らに暗殺されました。明治3年(1870)に草生津川刑場に埋められていた11名の亡骸は戦後に掘り起こされ、西来院に改葬されました。明治21年(1888)10月に当時秋田市に在住していた宮城県人竹内貞寿氏を中心とした有志が、勝海舟の揮毫による慰霊碑を現在地に建立しました。



## ㉒ 田羽川街道

羽川街道の景観は、「秋田街道絵巻」(伝・萩津勝孝 筆)に描かれています。久保田城下から土崎への道は道標・八橋街道とも呼ばれ、茶屋や古跡のある風景に富んだ景観で、旅人にとっては旅情豊かな街道だったと想像されます。



## ㉓ 西来院

曹洞宗少林山と号し、羅漢さんとも呼ばれています。もと藤倉にある補陀寺2世良雄和尚の開居寺が廃絶したものを、寛政年間に秋田藩9代藩主佐竹義和がこの地に再興させました。神社の裏山は、三十三番の巡拝地となっており、境内には万魚供養碑、筆塚などの石碑が多く建立されています。寺内に県指定有形文化財「涅槃園」と市指定有形民俗文化財「熊野観心十界曼陀羅園」があります。



## ㉔ 伽羅橋

伽羅橋にまつわる伝説はいろいろありますが、その1つは、ある時浪遣の舟人が夕暮れに火縄を握ったこの橋にさしかかったところ、火縄を落としてしまっ橋の一部を焦がしてしまいました。するとあたりにより香りが漂ったので、船に木を積んで津の国(現在の大阪府や兵庫県周辺)へ行き、それを売って大いに利益をあげました。以来、この橋を伽羅橋(または香炉木橋)と呼ぶようになったというものです。



